

■草加市都市農業振興基本計画パブリックコメント実施結果について

1 意見募集

(1) 募集期間 令和2年1月10日から令和2年2月10日（31日間）

(2) 募集結果 提出意見 24件

2 寄せられた意見に対する市の考え方

「草加市都市農業振興基本計画」素案に対し募集期間中に寄せられたご意見について、次のとおり市の考え方を公表します。

No.	ご意見の概要	市の考え方、対応(案)
1	市がJAや農家などと連携・検討し、空き家・空き地などの利活用を行い、生産者が分かる農産物直売所ができるとよい。	庭先販売は新鮮な農産物が購入できたり、農業者との交流といった草加市の都市農業の魅力があふれています。いただいたご意見については、様々な方々と連携し具体的に事業を進める上で参考とさせていただきます。
2	アンケート結果にある、「地場農産物の購入方法が分からない」は同感で、庭先販売所や直売所等の地図があると良い。	現在「草加市農産物庭先販売マップ」がございますが、詳細な地図などが分かりづらいという意見もあることから、より手に取りやすく分かりやすいようにデザインや内容について改善をすすめてまいります。
3	食べていける農業、後を継げる農業を作るためにも、相続税の問題などを解決できるよう、国・県に対して市内の農家の声、市民の声を届けて欲しい。	いただいたご意見については国・県に対しても市内の農家の声、市民の声として伝え、食べていける農業、後を継いでいける農業を目指し、様々な取組みに繋げてまいりたいと考えております。
4	食育を農業行政の視点だけではなく、健康、産業など様々な視点から取り組んでもらいたい。	食育については農業行政だけの視点ではなく、ご意見のあった健康・産業(農商工連携による取組み)など様々な視点から取り組みを進めるよう検討させていただきます。
5	土地活用の方法として、土地所有者が農業を行うプレーヤーに土地を貸すことはどうか。所有者自らが農業をしなくても、土地を貸すことで農業に参入できる仕組みと農地を持たない農業者が起業できる仕組みなどを行えば農業者の育成になると思う。利用方法としてCSA(地域支援型農業)も取り入れることで一定の収入を事業の初期に確保できるというメリットもあると思う。	農地の賃貸借には法令上の制限もございます。いただいたご意見については、法制度を踏まえつつ、具体的な事業を検討するにあたっての参考とさせていただきます。農業者の育成につながる仕組みなども情報収集するとともに、いただいたご意見の主旨を反映し、CSA(地域支援型農業)などの新たな手法の検討についても記載させていただきます。(P30)
6	庭先販売は時間的な問題や駐車場がないなどの問題でなかなか買いに行けない。そのため、道の駅のような農産物直売所をつくって欲しい。また、CSA(地域支援型農業)を取り入れることで地元の小規模農家を応援して欲しい。	道の駅のような農産物直売所については、現在においても庭先販売のほか、農業協同組合の農産物直売所や市内各所のスーパー等の地場農産物コーナーなど様々な場所において地場農産物を手に取ることができることから、その利便性も含めてさらなる周知を図ってまいりたいと思います。また、小規模農家の収益安定化策の一つとして、いただいたご意見の主旨を反映し、CSA(地域支援型農業)などの新たな手法の検討についても記載させていただきます。(P30)

7	出荷できない規格外の農産物を扱う無人販売所を増加させ、低価格で販売することで、どこでも農産物が手に取れるようにして欲しい。	現在草加市内には69件の庭先販売農家があります。庭先販売農家や新たな庭先販売を始めたい方への支援、庭先販売のPRを通じて、草加市の庭先販売のさらなる振興に努めてまいります。
8	季節毎に農家の方による旬の野菜をテーマにした講習会を、市民農園利用者や、今後始めてみたい方など興味がある方を対象に開催してみるのはどうか。また、生産から出荷までの農業体験を行うのはどうか。	農業者による体験農園や講演は現在も市内で一部行われているものの、旬の野菜をテーマにした講習会というような新たな切り口のもの、また色々なニーズに合うようなテーマでの開催が検討されるよう、農業者の皆様にも情報提供させていただきます。また、生産から出荷までを実践する体験農園についても農園管理者・農園利用者の皆様にも情報提供させていただきます。
9	庭先販売の拡大へ向け、農家で体験しながら収穫した野菜を自宅で庭先販売の実施をしてはどうか。	自家消費ではない野菜の販売を体験者が行うことについては法令上の制限もあるため、具体的な事業を検討するにあたっての参考とさせていただきます。
10	SNSを活用した会員制サイトを創設し、会員募集をして、収穫予定野菜の販売予約を募り販売してみてもどうか。	今後の庭先販売利用者や農業者などへのニーズの把握を踏まえ、具体的な事業を検討するにあたっての参考とさせていただきます。
11	教育委員会と協議して、幼稚園～小学校～中学校と継続して農業体験を授業に取り入れるのはどうか。	現在一部の小学校で枝豆の栽培体験を行っております。今後の事業展開にあたり、参考とさせていただきます。
12	市のHPに都市農業情報コーナーを開設する。(リンク先「農がある都市・そうか」のSNS) 庭先販売・収穫情報・講習会・体験情報などの掲載をして欲しい。	都市農業のPRにおいてHPやSNSの活用は、重要なものだと考えております。また、「あ、そうか.net」いただいたご意見については、具体的に事業を検討するにあたっての参考とさせていただきます。
13	大切なのは口コミ拡散させることであり、無駄にPR予算を使わないようにする。予算は実務に集約して欲しい。	PRについては費用対効果を慎重に検討しながら、実施してまいります。

14	試食に特化したアンテナショップを開設し、地産地消のPRを行う。	アンテナショップの開設については、その採算性など課題も多いことから、引き続き情報収集をしております。
15	インファーム店舗の出店 廃棄ロス(食品ロス)の社会問題にも取り組むため、インファーム店舗を実験的に出店し農業への市民意識・関心を高めてもらう。	農地に近接した直売所、農家レストランといった施設については、都市農業の理解醸成を進める上で、また残渣等のたい肥への活用という取組を進める上でも重要な拠点になると考えておりますので、情報収集を進めてまいります。
16	キャッシュレスでの販売。 現金管理に係る設備投資を減らすため、キャッシュレス化を推進する。	キャッシュレス化については、安価で設置できる販売の仕組みなど情報収集をしております。
17	草加市商店連合事業協同組合とのタイアップを企画して、地元飲食店に地消の推進を行う。	地元飲食店との連携をはじめとした農商連携について、地産地消を推進する施策の一つとして実施してまいりたいと考えております。
18	福祉施設と農家による協同農園の開設	福祉と農業との連携については、双方にとってより良い形で実施できるよう、検討を進めてまいりたいと考えております。
19	老人会との連携や専業主婦の会を創設し、農業に興味がある方の参加を促しながら、都市農業の発展に協力をお願いする。イベントのお手伝いや、実際に講習等に参加して頂く。	農業に関心や興味のある高齢者等の様々な立場の皆様の参画を得ながら、都市農業の振興に努めてまいりたいと思います。
20	庭先販売、農業体験、地産地消やPRなど都市農業に係わる様々な事業を集約・実践する法人の設立	法人等の設立については今後の事業を実施していくなかで、検討課題の一つとさせていただきます。
21	農家の実情の見える化(生産量に対する生産物廃棄ロス率、各種の農産物生産量に対する、市民一人当たりの生産量、市の面積に対する農地(家庭菜園など含む)の割合、市民一人当たりの農地面積、市内で生産されている農産物の種類・収穫量、農家の現状の流通・販売経路)を行う。	今後、都市農業振興を実施していくためには市内の農業の実情の把握、情報の集約が重要であると考えており、いただいた意見を取り入れながら、市内の農業に関する情報の集約に努めてまいります。

22	ブランド化(実際に地産野菜とスーパーの市販されている野菜の食べ比べをしてもらい、本当の新鮮野菜のおいしさを体感してもらい、差別化を図る。)	引き続き農業関連イベントにおいて、新鮮な野菜の魅力を伝えるために、野菜の試食を実施し、その魅力をお伝えしてまいります。
23	草加農業女子PJ(企業とのマッチング・各種イベントへの出店など)	女性の目線や視点を取り入れることは必要だと考えられることから、今後の事業実施の参考とさせていただきます。
24	庭先販売やイベントでの販売は重量野菜も出荷される。また、直売所も駐車場が大きいほど集客が有利であるため、農業祭、都市農業フェアのイベントはテント出店のほかに、軽トラ荷台販売スペース、ドライブスルーなどの購入方法で、重量野菜、多数販売ができるように検討して欲しい。	直売の野菜については、大きいものや重いものなど様々な種類があり、徒歩で持ち帰るのが難しいものもあります。いただいたご意見については、具体的に事業を検討するにあたっての参考とさせていただきます。